１－２	間接指導における効果的な自己評価カード（学習ふりかえりカード）の活用法

１　はじめに

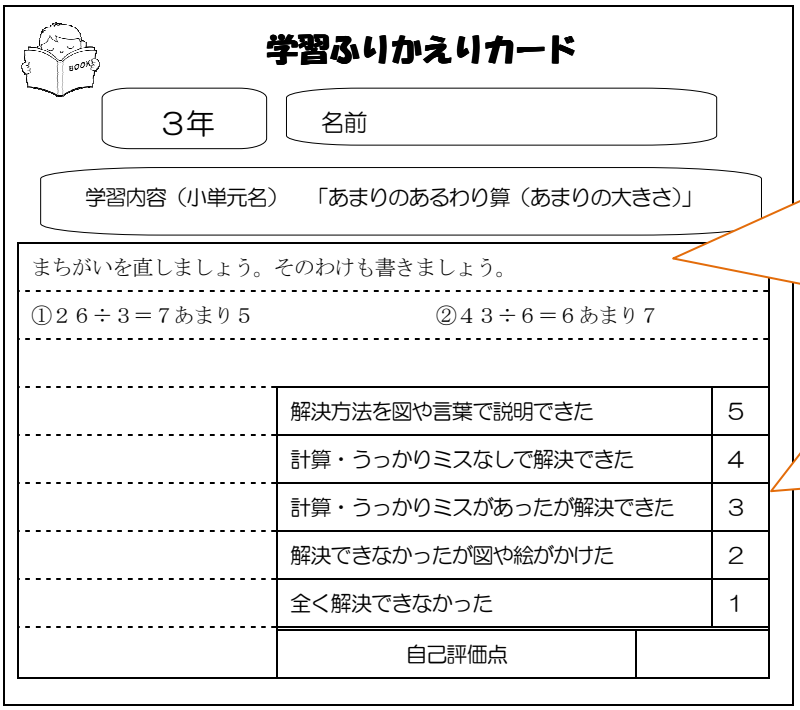
複式学級における学年別指導の学習では、間接指導の在り方が重要となる。つまり、間接指導において、児童が自主的な学習を進めたり、自分の考えを深めたりすることができるような工夫が必要である。本校では、算数科を中心として問題解決的な学習に取り組み、自己評価カード（学習ふりかえりカード）を活用しながら、児童が自分の考えを表現できる力の育成に取り組んでいる。その事例をいくつか紹介する。

２　算数科における自己評価カードの活用例

（１）自分の考えを深めるための活用例

①　３年　単元名「あまりのあるわり算」

例示した「学習ふりかえりカード」は紙面の都合上、行数を減らして載せている。



学習ふりかえりカード

３年　　名前

学習内容（小単元名）　「あまりのあるわり算（あまりの大きさ）」

まちがいを直しましょう。そのわけも書きましょう。

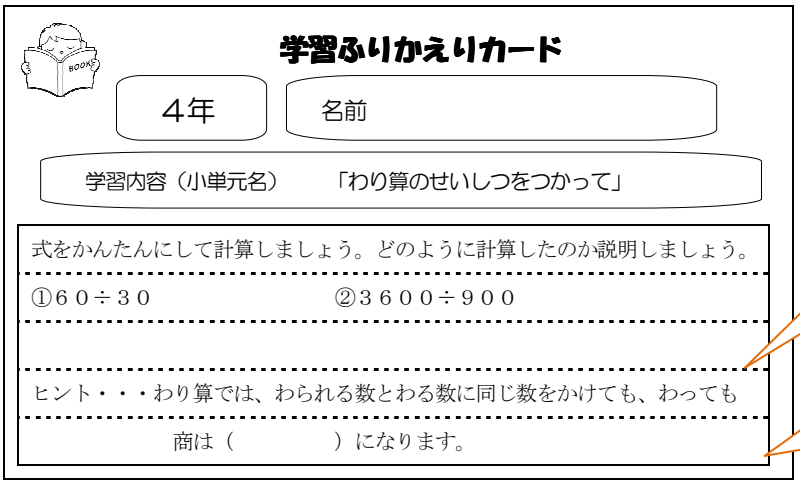
①２６÷３＝７あまり５　　②４３÷６＝６あまり７

	解決方法を図や言葉で説明できた	５
	計算・うっかりミスなしで解決できた	４
	計算・うっかりミスがあったが解決できた	３
	解決できなかったが図や絵がかけた	２
	全く解決できなかった	１
	自己評価点	

このカードは、学習を「ふりかえる」場面で活用することが多く、教師は、児童の学習状況を把握することができる。また、このカードをファイル等にとじておき、児童自身が学習全体を振り返るときにも役立てることができる。

児童は、自分の学習を振り返り、５段階で自己評価する。問題を解くことだけでなく、解決方法を図や言葉で説明することもねらいとしている。

②　４年　単元名「２けたでわるわり算の筆算（わり算のせいしつ）」



学習ふりかえりカード

４年　　名前

学習内容（小単元名）　「わり算のせいしつをつかって」

式をかんたんにして計算しましょう。どのように計算したのか説明しましょう。

①６０÷３０　　②３６００÷９００

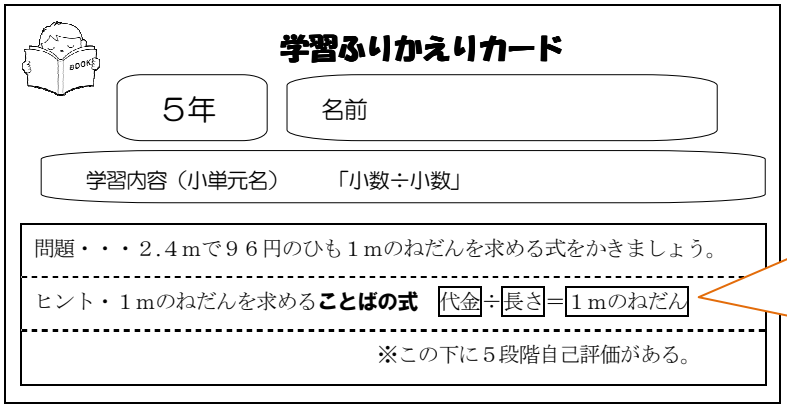
ヒント・・・わり算では、わられる数とわる数に同じ数をかけても、わっても

商は（　　）になります。

学習した内容を復習できるように、ヒントを書くこともある。

紙面の都合上、５段階の自己評価の部分は、除いている。この下に、５段階の自己評価がある。

③　５年　単元名「小数÷小数」



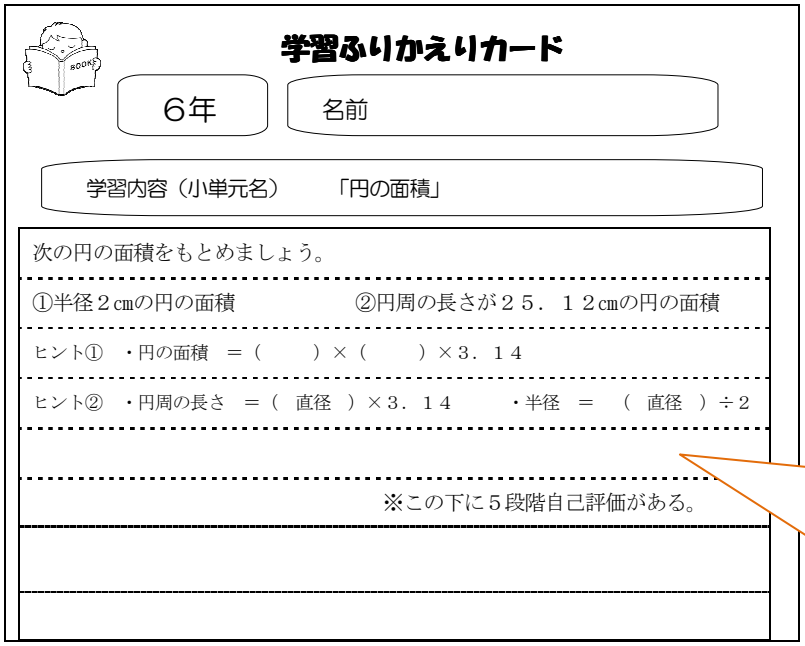
立式の理由を説明するとき、その根拠となることをヒントとして書いておくことで、「ことばの式」の活用を促すことができる。

（２）　学習内容の理解を確認するための活用例

①　４年　単元名「商が１けたになる筆算」

本時の授業や単元の学習の振り返りを自分の言葉で書く。分かったことや気づいたこと、もっとやってみたいことなどを書くことで、児童の興味を喚起させたり書くことの習慣化を図ったりする。

②　６年　単元名「円の面積」



問題解決のために必要な既習内容を確認しながら、ヒントを活用できるようにする。問題につまずいている児童は、これを手がかりに学習を進めることができる。